

オーストラリア・タスマニア留学報告

2025年2月～2025年12月の10か月間、私はAFS日本協会・タスマニア州政府のホームステイプログラムを利用し、語学だけでなく異文化体験と異文化交流を目的として年間留学をしました。

私の留学したタスマニア州ホバートは、フレンドリーで大らかな人々、豊かな自然、そして多くの史跡やミュージアムに恵まれた街です。気候も過ごしやすく、海が近いのんびりとした穏やかな雰囲気が魅力的でした。ステイ先では、アクティブなホストマザーとブラジルからの留学生、そして3匹の猫と暮らしました。ホストマザーは、メルボルン旅行や美術館、ミュージアム、世界遺産のクレイドルマウンテンなど様々なところへ連れて行ってくれたり、料理やお菓子を一緒に作ったりしてくれました。

留学先では公立高校へ通い、英語、日本語、アボリジニの歴史、料理、マリンスポーツなどの選択科目を受講しました。中でもアボリジニの授業は苦労の連続でした。話すスピードが速いうえに歴史の専門用語も多く、授業でのディスカッションでは常に自分の意見を求められます。「本当にやっていけるのだろうか」と不安な毎日でしたが、日々の予習・復習に必死で取り組み、授業についていきました。さらに、教室だけでなくアボリジニゆかりの地を訪れ、ワークショップや史跡を実際に体感したことで、彼らが何を思い、どのように文化を後世に伝えてきたのかを深く知ることができ、非常に興味深い経験となりました。

この留学では、本当に多くの経験を重ねました。ミュージカルのコスチューム制作やジャズバンド、フットサル、カフェテリアでのボランティアなどです。中でもミュージカルは、舞台、脚本、照明、音楽のすべてが本格的でした。4か月ほど前から毎日遅くまで作業を行い、本当に辛い時期もありましたが、仲間と共に一つのものを作り上げた当日の達成感は、何事にも代えがたいものとなりました。

高校にはアジア、ヨーロッパ、アフリカ圏など多種多様な留学生が在籍しており、彼らと話すことも楽しみの一つでした。様々な国からの留学生との交流を通じて、多様な価値観を知ることができました。

留学を振り返り、一番強く感じたのは「言語の壁」です。自分から積極的にコミュニケーションを取り続けなければ何も変わらないし、誰も助けてはくれません。たとえ間違っても、些細なことでも一生懸命に伝えようとすることで、相手も理解しようとしてくれます。この一年の留学経験は、私の価値観を大きく変え、心身ともに逞しくしてくれたと感じています。



クレイドルマウンテン



コスチュームの制作



日本語クラスの友達と

